

水プロジェクト・フィジー共和国大使が卓話に

船橋 RC 狩野文夫

国際ロータリーの重点分野7つがあり、その中に『水と衛生』という項目があります。

船橋 RC では、三年前に『水と衛生』項目にちなみ『水プロジェクト小委員会』を立ち上げました。

同時期に、偶々、R 財団世界平和フェロー2015～16 年派遣学生だった古井丸拓也氏が、国連関係の仕事でフィジー共和国首都に赴任中であることがメールで分かり、古井丸氏にフィジーロータリー関係者と連絡を取り具体的な話をしして貰いましたが、生憎の新型コロナの猛威が中国ばかりではなく世界中に蔓延し、交渉が厳しくなりました。Web やビデオ付電話での説明をするが、フィジー共和国は、日本の四国くらいの面積で周囲が海『水』に恵まれすぎて、寄贈予定の『スーパーアルカリイオン水生成装置』の話をして、中マイオン水生成装置の説明がかみ合わなかった。そんな中、古井丸氏が、2022 年 3 月に急遽カメルーンに赴任先が変更になってしまいフィジー共和国との話は全く暗礁に乗り上げてしまいました。

ロータリーの友 2022 年 6 月号『よねやまだより 米山から世界の町へ⑩フィジー・ザブザブ 在日フィジー共和国 臨時代理大使 クレラ・サブさん』が目にとまり、駄目で元々と思いフィジー共和国大使館にメールしました。すると、早々に船橋 RC 水プロジェクトの話を聞きたいということになり、担当小委員長松澤民男と訪問し、過去 3 年間の経緯を説明。寄贈予定のスーパーアルカリイオン水とはどんなものがサンプルを持参し、大使の目の前で、イオン水を利用し、大使の腕時計(米山記念奨学生で 2007 年に貰い、ズーと腕にはめ続けている時計)を恐縮ですが外して貰い持参のイオン水の中に投入、するとビーカーの中は目に見えない汚れが落ち透明から濁りに変化。その生成装置を寄贈

し、幼稚園から高校生に至る感染予防の厳しく衛生管理され、アルコールから手が荒れたり、雑菌アルコール購入費が高騰していますが、スーパーアルカリ水生成装置は、水からイオン水を作るので、感染対策に手が荒れたりする事はない説明し、強い関心を寄せて戴きました。その説明のデモンストレーションが一通り終えて帰るエレベータ前の立ち話で、“7月半ばまでならば例会に行く時間があります。”と声を掛けて戴き、新年度当初ですが、急遽7月12日(火)に卓話に来て戴きました。

例会当日午前中は、凶弾に倒れた元総理安倍晋三氏の弔問(港区・増上寺)に行かれ、その後船橋 RC までと、七月冒頭の予定に無かった弔問が入り、多忙な中ではありましたが大使ならでわのロータリーに精通され卓越された話術でパワーポイントを併用しフィジー共和国の状況をお話戴きました。

ラベンダー卓話開始時には、元総理安倍氏への弔意を戴きました。

大使来訪と言うことで時期が時期なので千葉県警から要人護衛、警部補にも来て貰いました。

例会後は、メンバーと名刺交換等ししばし歓談され、船橋 RC 「水プロジェクト・スーパーアルカリイオン水生成装置」寄贈の実現にご尽力戴ける見通しがつきました。

読むだけの「ロータリーの友」では無く活用できた「ロータリーの友」となりました。

「ロータリーの友」の記事に感謝。



